

ナシヒメシクイ

○被害と発生生態

越冬世代成虫は3月下旬から4月に発生し、幼虫は5月から6月にかけてモモ、ウメ、サクラなどの新梢に食入して心折れ被害をもたらす。7月以降に発生する幼虫はナシ、モモ、リンゴなどのバラ科果樹の果実に食入し被害を与える。その際、食入口から糞を排出する。成虫は体長5～7mmで茶褐色、幼虫は体長約1cmの円筒形で淡紅色をおびる。年4～5回発生すると考えられる。越冬は粗皮の割れ目などに粗い繭を作って老熟幼虫で行う。

7月から9月にかけて連続的に発生するが、成虫の発生量は世代を重ねるにしたがって増加する傾向にあり、山口県では特に8月下旬から9月上旬に大きな発生ピークがあることが多い。このため9月以降に収穫する品種で被害が多くなる傾向がある。有袋栽培では、幼果期の被害は問題とならないが、果実が肥大するにしたがって袋の破れ目などから幼虫が食入し、被害が発生する。また、収穫が始まる8月中旬以降は、防除を実施できない園地が多く、被害を増加させる要因になっている。

○防除方法

(ア) 耕種・物理的防除

- ・粗皮削りなどを行い、越冬量を少なくする。
- ・被害果は取り除き、適切に処分する。
- ・コンフューザーNなど交信攪乱剤を広域（3ha以上）に設置する。

(イ) 薬剤防除

- ・無袋栽培では7月頃から収穫期まで7～10日間隔で薬剤防除を行う。
- ・有袋栽培も含め、9月以降に収穫する品種では、8月下旬～9月の防除を実施する。



フェロモントラップに誘殺された雄成虫



幼虫

(写真提供:やまがたアグリネット)